

仙南医療圏の休日の 医療提供体制について

仙南医療圏の休日の医療提供体制について

本議題の目的

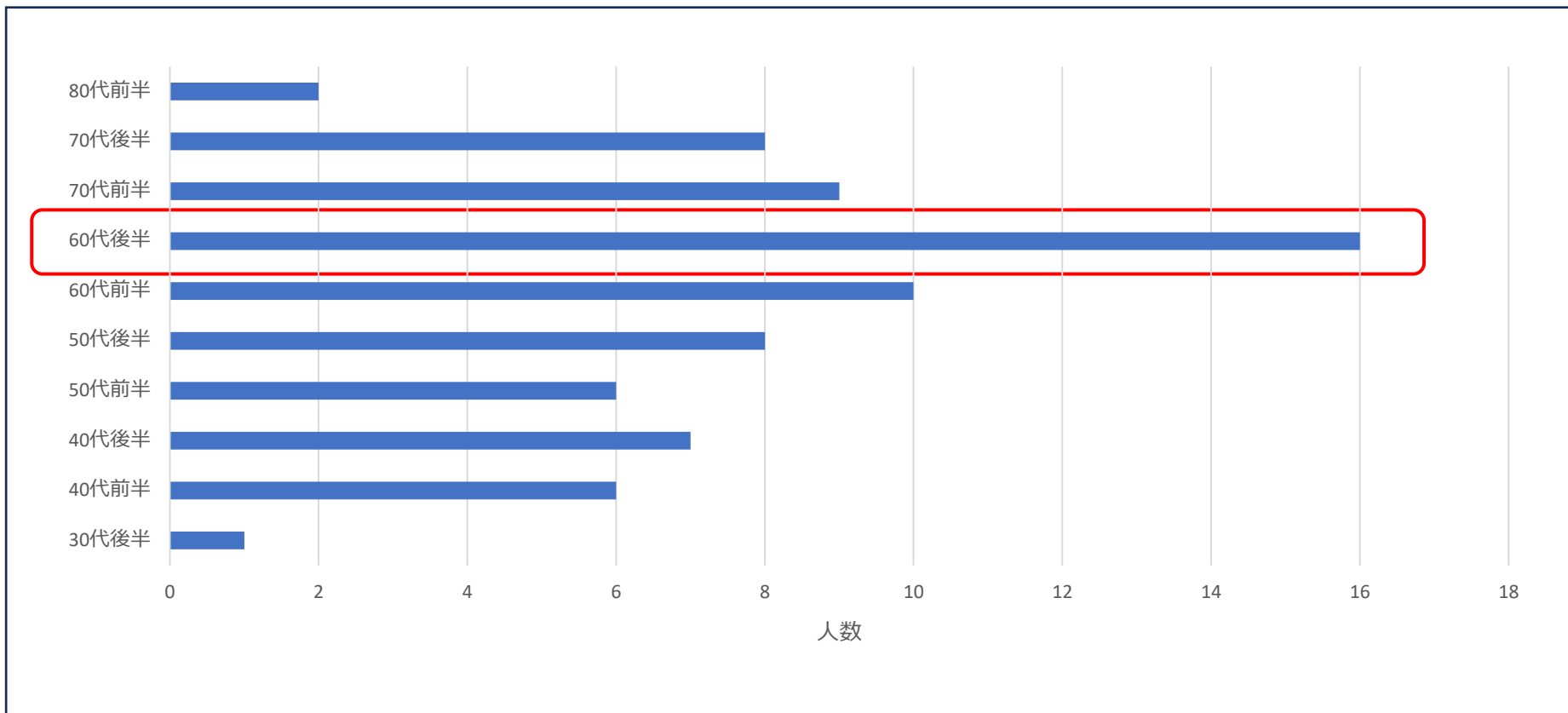
- ・ 仙南医療圏における休日の医療提供体制に係る**現状の**整理と課題の共有
- ・ 課題について関係者間で議論し、今後の方向性を考えていく

休日の医療提供体制に関する仙南医療圏の**課題**

- ①開業医の高齢化
- ②休日当番医に係る採算性

医師の高齢化（令和8年1月1日時点）

本圏域の医師の年齢構成【全体】

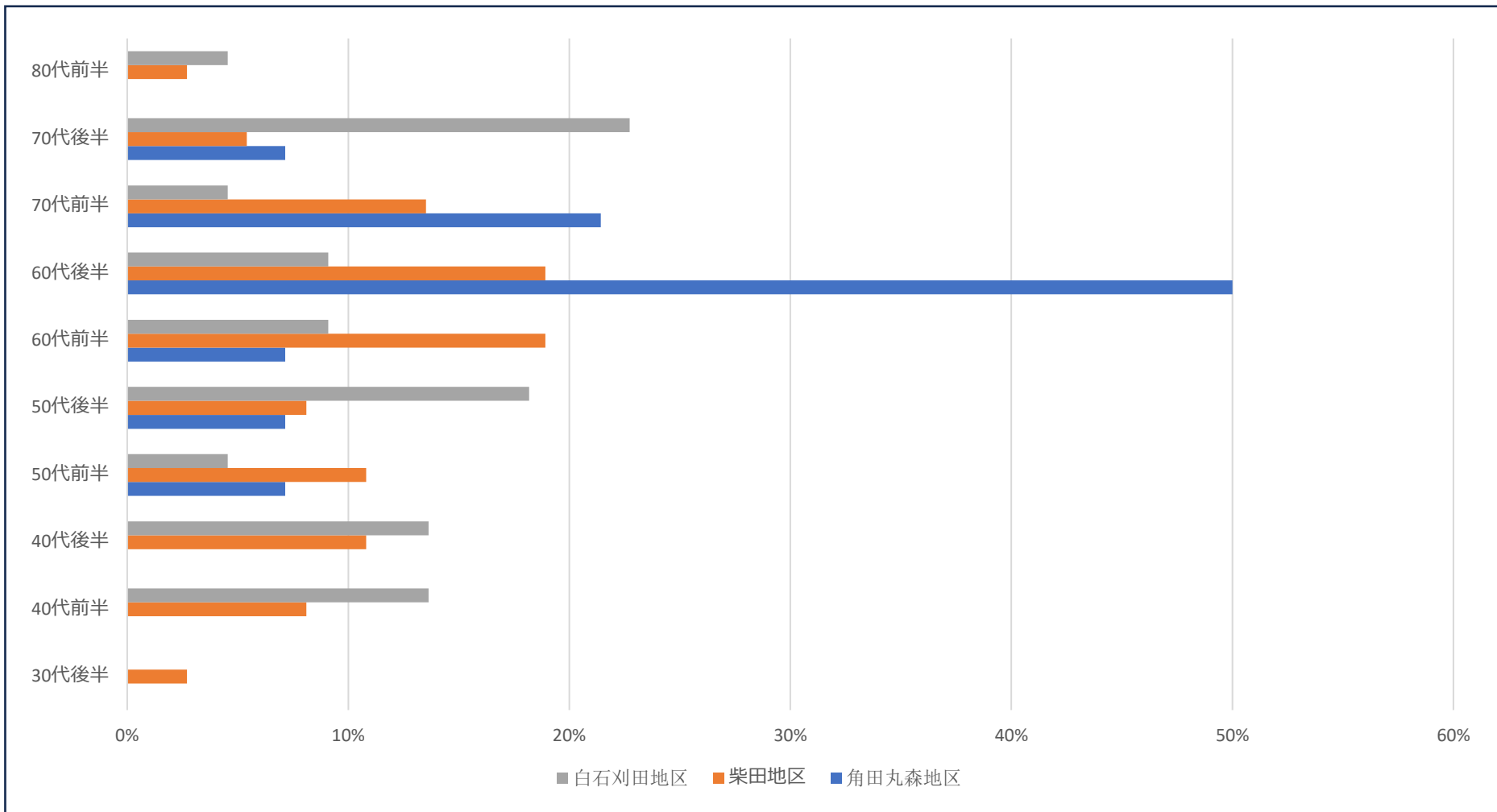


※精神、眼科、耳鼻科、特養等の医師を除いている

- ・現時点では60代後半の医師の人数が最も多く、10年後は70代の医師が最も多くなる。
- ・年齢構成の高齢化が進行した場合、体力的にもこれまでどおりの診療体制の維持が難しくなる。

医師の高齢化（令和8年1月1日時点）

地区ごとの医師の年齢構成の割合【白石・刈田、柴田、角田・丸森地区】

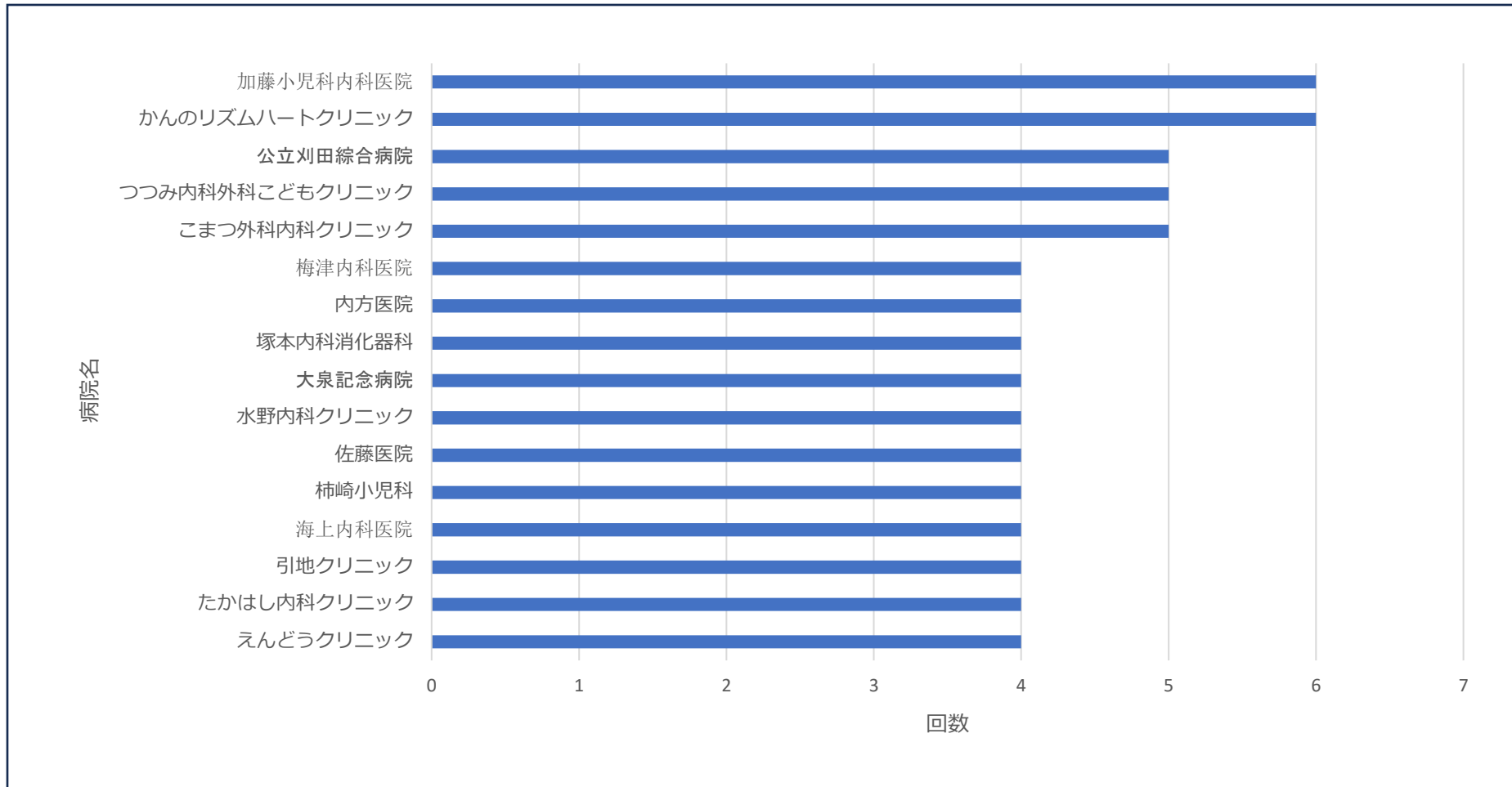


※精神、眼科、耳鼻科、特養等の医師を除いている

- ・特に白石・刈田地区では、70代後半の医師が最も多い。
- ・今後の医療提供体制の維持が懸念される。

休日当番医の実施状況（期間：令和7年1月1日～12月31日）

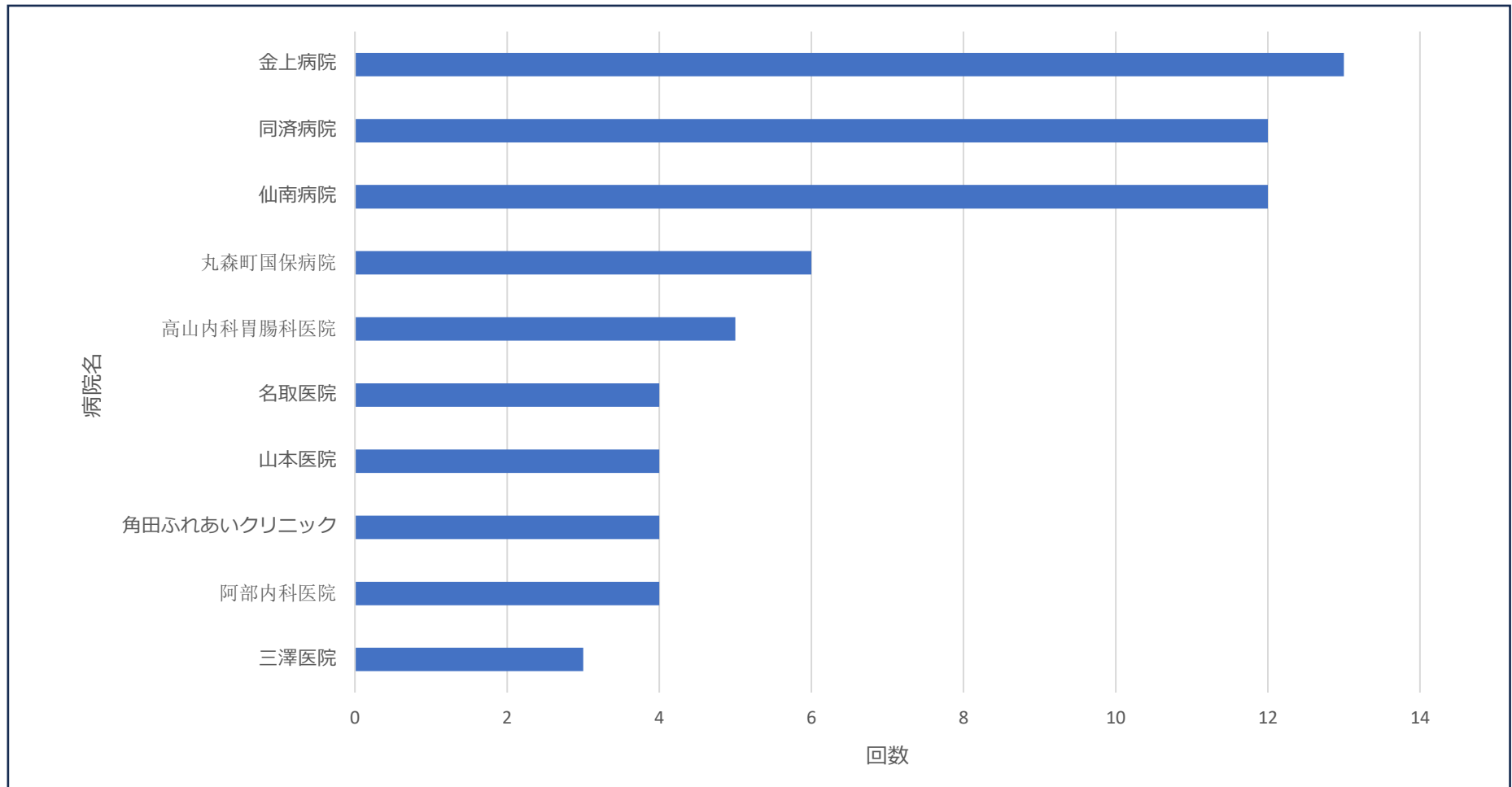
各医療機関の休日当番を行った回数【白石・刈田地区】（内科・外科同一）



16医療機関が行い、平均4.3日、最大値6日
休日当番医が組めなかった休日は2日（12/29,30）

休日当番医の実施状況（期間：令和7年1月1日～12月31日）

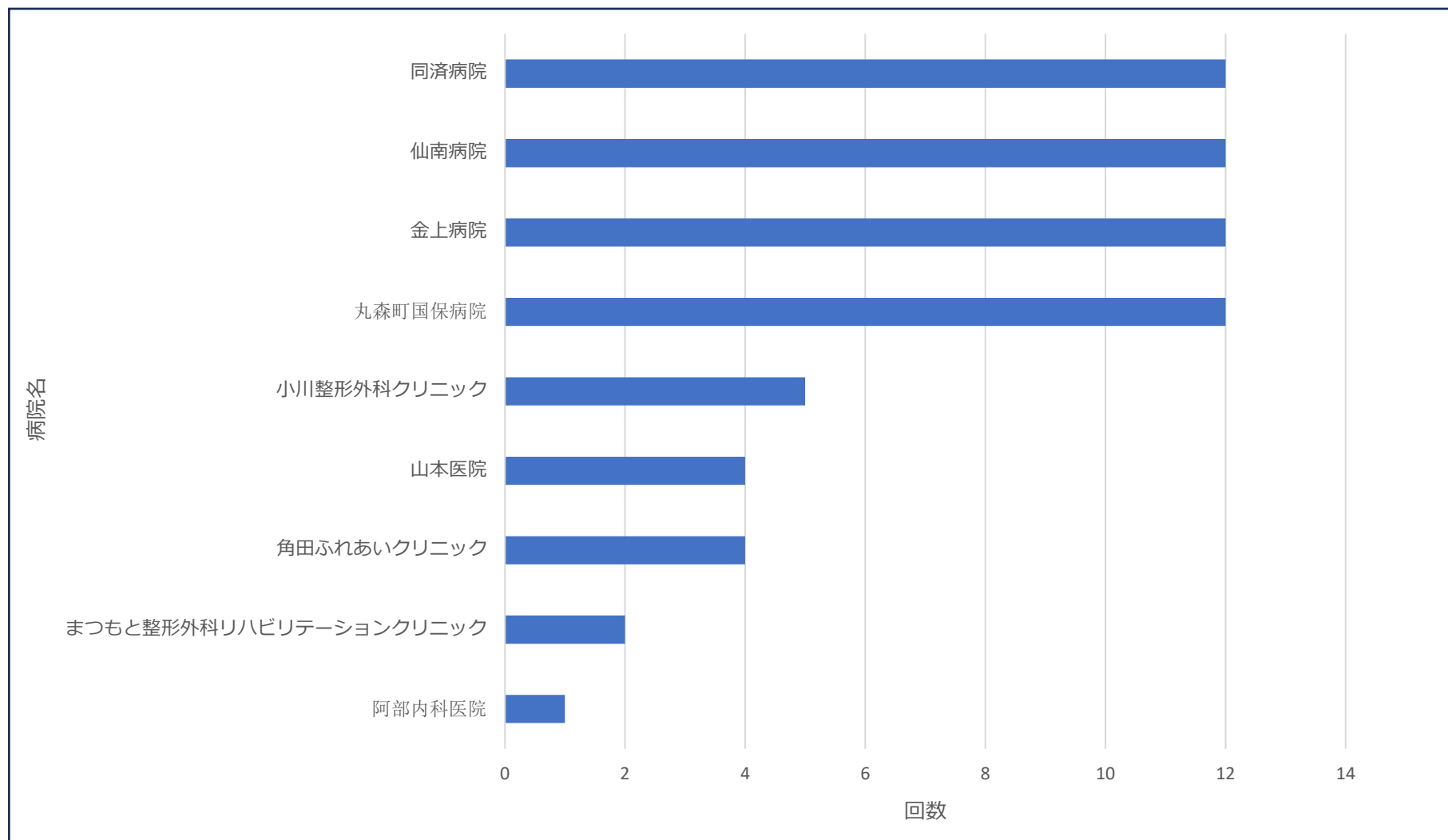
各医療機関の休日当番を行った回数【角田・丸森地区】（内科）



10医療機関が行い、平均6.6日、最大値13日
休日当番医が組めなかった休日は6日（1/1,12, 5/5,4, 11/30, 12/29）

休日当番医の実施状況（期間：令和7年1月1日～12月31日）

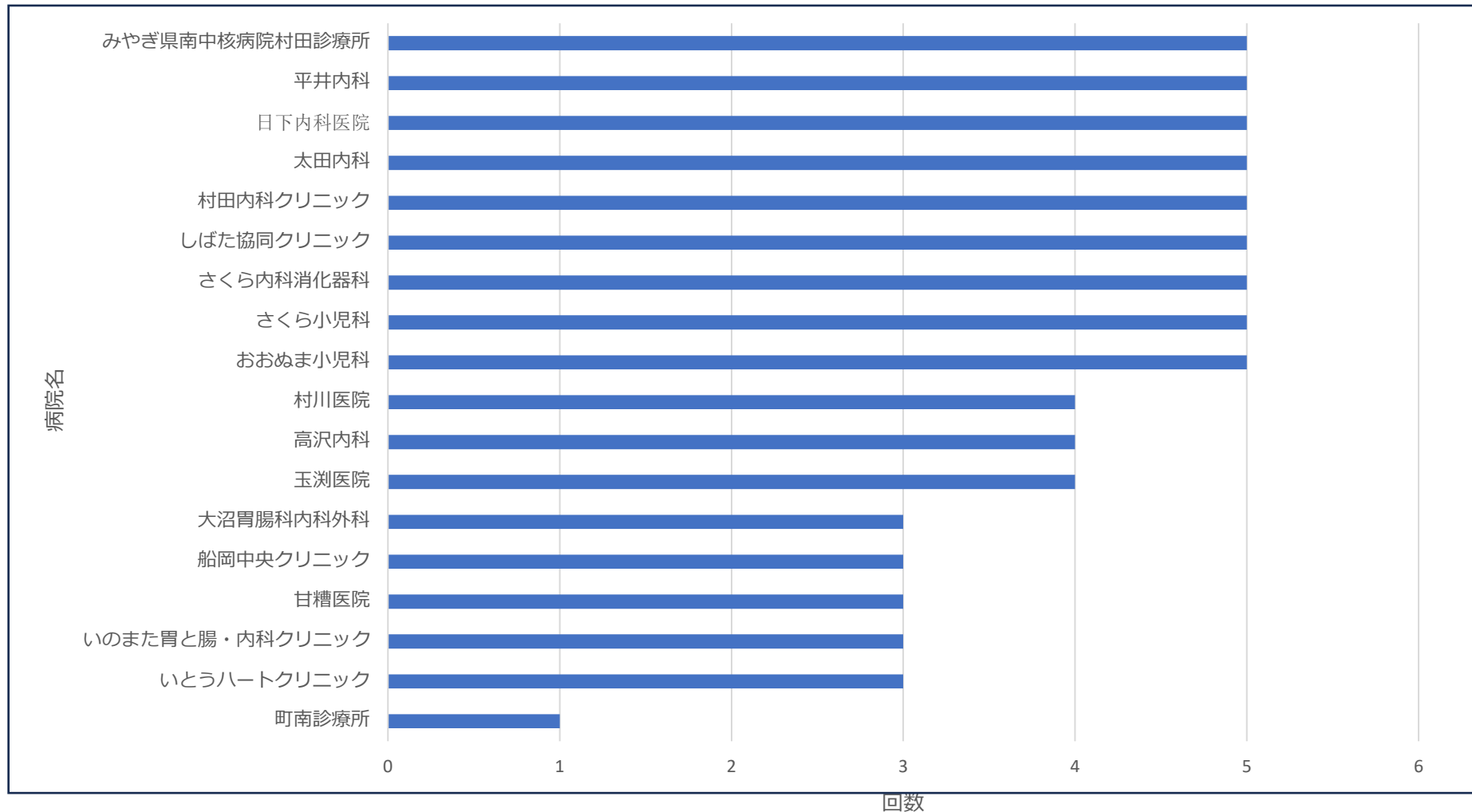
各医療機関の休日当番を行った回数【角田・丸森地区】（外科）



9 医療機関が行い、平均 7.3 日、最大値 12 日
当番医のいない休日は 9 日（1/1,2,13, 3/20, 5/5, 8/31, 11/30, 12/29,30）

休日当番医の実施状況（期間：令和7年1月1日～12月31日）

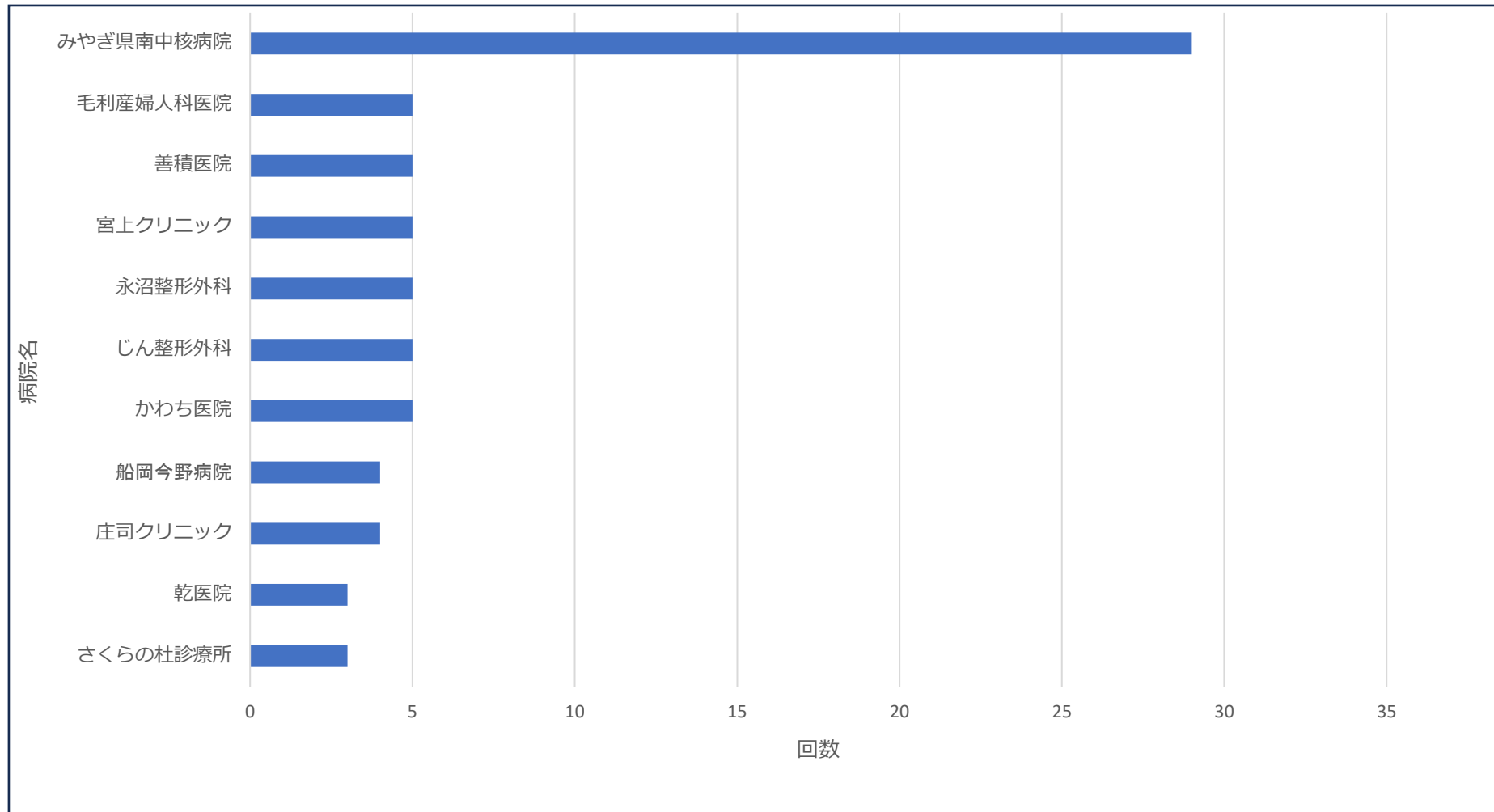
各医療機関の休日当番を行った回数【柴田地区】（内科）



18医療機関が行い、平均4.2日、最大値5日

休日当番医の実施状況（期間：令和7年1月1日～12月31日）

各医療機関の休日当番を行った回数【柴田地区】（外科）



1 1 医療機関が行い、平均 6.6 日、最大値 29 日

現状の見える化

地区ごとの医療機関数と休日当番の実施回数

		病院数	診療所数	合計	R7年間休日数	理論上の1医療機関当たりの年間当番日数	実際の平均当番日数	
							内科	外科
白石刈田地区	白石市	1	16	22	73日	3.32	4.3	
	蔵王町	1	2					
	七ヶ宿町	0	2					
角田丸森地区	角田市	3	8	14		5.21	6.6	7.3
	丸森町	1	2					
柴田地区	大河原町	1	12	37			1.97	4.2
	村田町	0	5					
	柴田町	2	15					
	川崎町	1	1					

※病院・診療所数は精神、眼科、耳鼻科、特養等を除いている



- ・医療機関ごとの休日当番回数に偏りが見られる。
- ・地区によっては、休日当番医が組めない休日が生じている。
- ・今後10年で開業医の高齢化が進行していった場合、特定医療機関・特定医師への負担の偏りがみられる現状の仕組みでは、休日の医療提供体制を維持することは難しいのではないかと？

考えられる課題

10年後、医師（医療機関）が減ったとき、残された医療機関の負担の増加割合

① 10%	減	→	約 1.11 倍	増
② 25%	減	→	約 1.33 倍	増
③ 40%	減	→	約 1.67 倍	増

※増加する負担割合
1 / (残る割合) で計算
※新規の開業等はないものとする

具体的な当番回数は、

現状が平均 6.6 日の場合、25%減の場合は、約 8.8 日
40%減の場合は、約 11.0 日となる



起こりうる現象

- ・休日当番が組めない休日が増える

→地区による差が顕著になる

→別の地区の休日当番の病院や、二次救急へ患者が向かい、受診先が偏る

- ・今後の医療提供体制について検討していくためには、医療サービスの提供コストと収入のバランスについても考慮する必要がある。
- ・オンライン診療の進展についても考えておく必要がある。